

## 231-am08

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習に向けた概略評価の  
先行導入：アウトカム評価と教育効果向上のための提案

○横山 雄太<sup>1</sup>, 鈴木 小夜<sup>1</sup>, 河添 仁<sup>1</sup>, 地引 綾<sup>1</sup>, 中村 智徳<sup>1</sup> (慶應大薬)

【目的】改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した2019年からの実務実習に向けて、慶應義塾大学薬学部（本学）では、2018年度実務実習において学生のパフォーマンス評価のためにループリック形式の概略評価を先行導入した。本研究では、学習者である実習生を軸として、概略評価の実施状況と教育効果について測定・評価し、学生へのアンケート調査より、概略評価の適切な運用・実施に向けた課題と改善点の抽出を行う。

【方法】2018年度I期本学5年次生全員が3つの一般目標（GIO）と10の課題からなる概略評価（日本薬剤師会および日本病院薬剤師会作成）を用いた。実習終了後のアンケート調査の結果に基づき、概略評価により感じられる実習生自身の成長を実務実習に対する満足度（成長実感度）とし、概略評価に対する学生や指導薬剤師の理解度、指導薬剤師からの概略評価の説明やフィードバックの有無を説明変数とした顧客満足度（CS）分析を行い、概略評価の有用性を評価した。

【結果・考察】概略評価の先行導入は、薬局75施設／学生77名、病院37施設／学生71名で実施された。薬局実習および病院実習において、パフォーマンスレベルは実習初期と比較して後期で有意に上昇した（ $p < 0.01$ ）。CS分析により、病院実習では学生の概略評価に対する理解不足、薬局実習および病院実習のいずれにおいても指導者の概略評価に対する理解不足を見出した。以上の結果より、実務実習における学生のパフォーマンス評価に概略評価を適用させることが可能であり、学生の成長が示された。一方、大学は学生のみならず指導者に対しても、概略評価に関する情報を提供および共有する必要があるとあり、実臨床の場での実務実習中に指導者と連携することで、実習生の成長実感度がさらに向上するものと考えられる。